

ビジネスアイデア創出の道

基礎編

自らの手で事業を鍛え上げるための指南書



この指南書の歩み

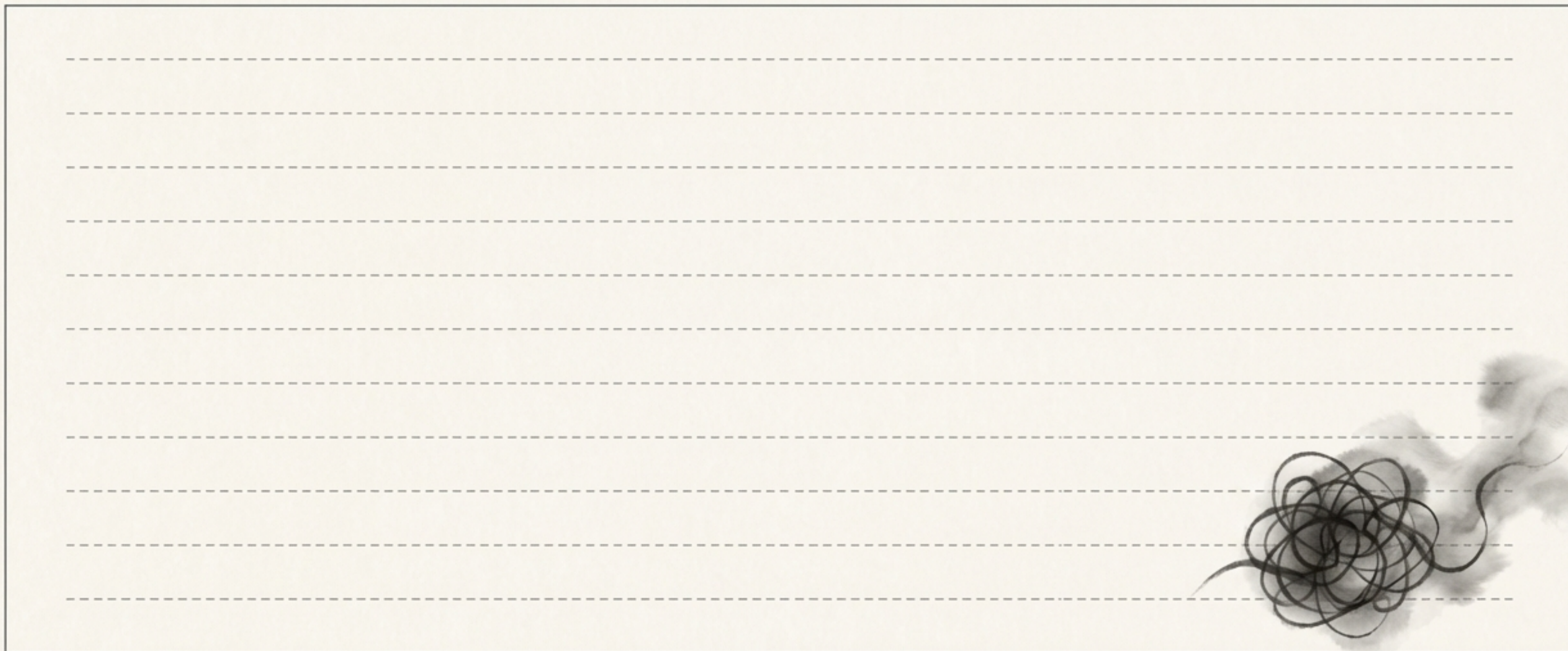
ビジネスアイデアの創出は、一本の道を歩むに似ています。
この指南書は、あなたの内に眠る着想を、確かな事業へと昇華させるための道標です。



- 心 (Shin) : 内なる声に耳を澄まし、課題の核を見つける
- 技 (Gi) : 常識を覆す思考法で、独自の解を編み出す
- 体 (Tai) : アイデアに骨格を与え、事業の全体像を描く
- 道 (Do) : 志を宣言し、未来への一步を踏み出す

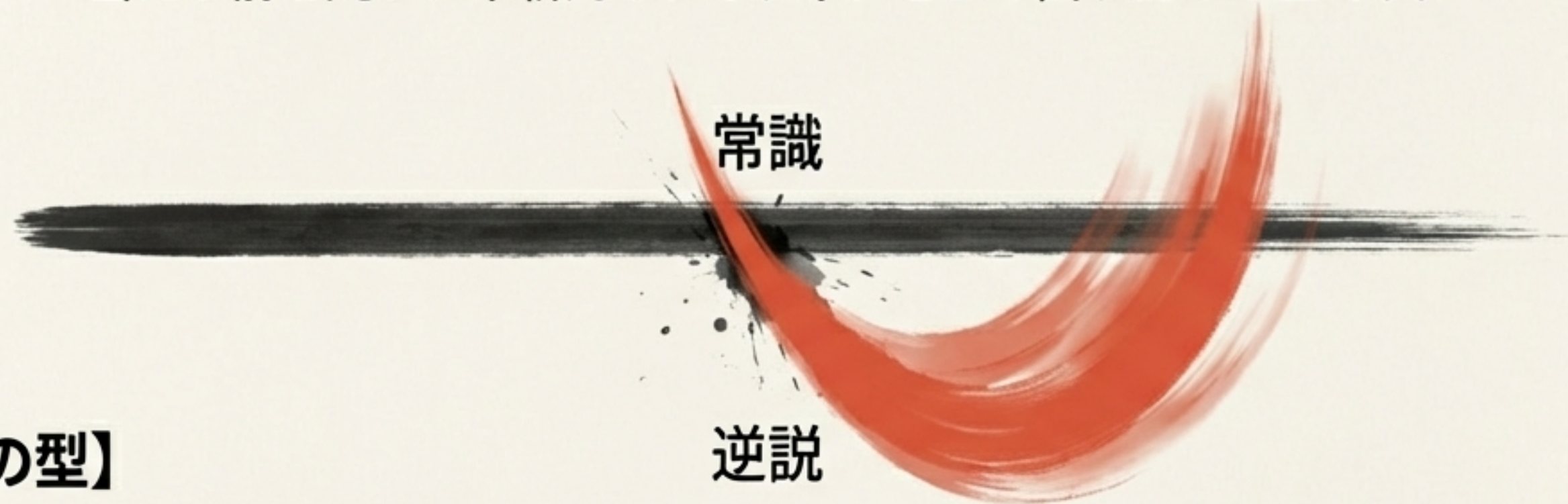
序の巻：日々の「モヤモヤ」を書き出す

普段の生活や仕事で感じる、不便・不満・非効率…。その小さな違和感こそが、すべての始まりです。心の赴くままに、書き出してみましょう。

A large rectangular area with horizontal dashed lines for writing. In the bottom right corner, there is a decorative swirl or doodle made of black lines.

二の巻：逆説の太刀筋

常識を覆す一太刀が、新たな道を開きます。「逆説の思考法」は、
当たり前を疑い、革新的なアイデアを生み出すための型です。



【基本の型】

1. テーマ： 課題を設定する
2. 普通は〇〇： 常識や当たり前を定義する
3. 逆に△△： その常識を、真逆にひっくり返す
4. □□に改善： 結果として生まれる新たな価値を見出す

逆説の思考法で、解決策を見極める

さあ、あなたの「モヤモヤ」の一つをテーマに、この型を実践してみましょう。

テーマ

「_____」は、

普通は

「_____」だけど、

逆に

「_____」になると、

結果として

「_____」に改善できる。

【例：Uber Eats】

テーマ「出前」は、

普通は「お店が準備する」だけど、

逆に「一般の人が運んでくれる」ようになると、

結果として「あらゆるお店が使えるよう」に改善できる。

三の巻：アイデアの可能性を測る二つの軸

優れたアイデアは、「心」と「理」の交点に生まれます。熱意だけで空回りせず、論理だけで心を失わない。二つの軸で、勝機を見出しましょう。

心

【縦軸：ワクワク度】

自分自身が、そのアイデアにどれだけ心を動かされるか。情熱の源泉であり、困難を乗り越える力となる。
(心)

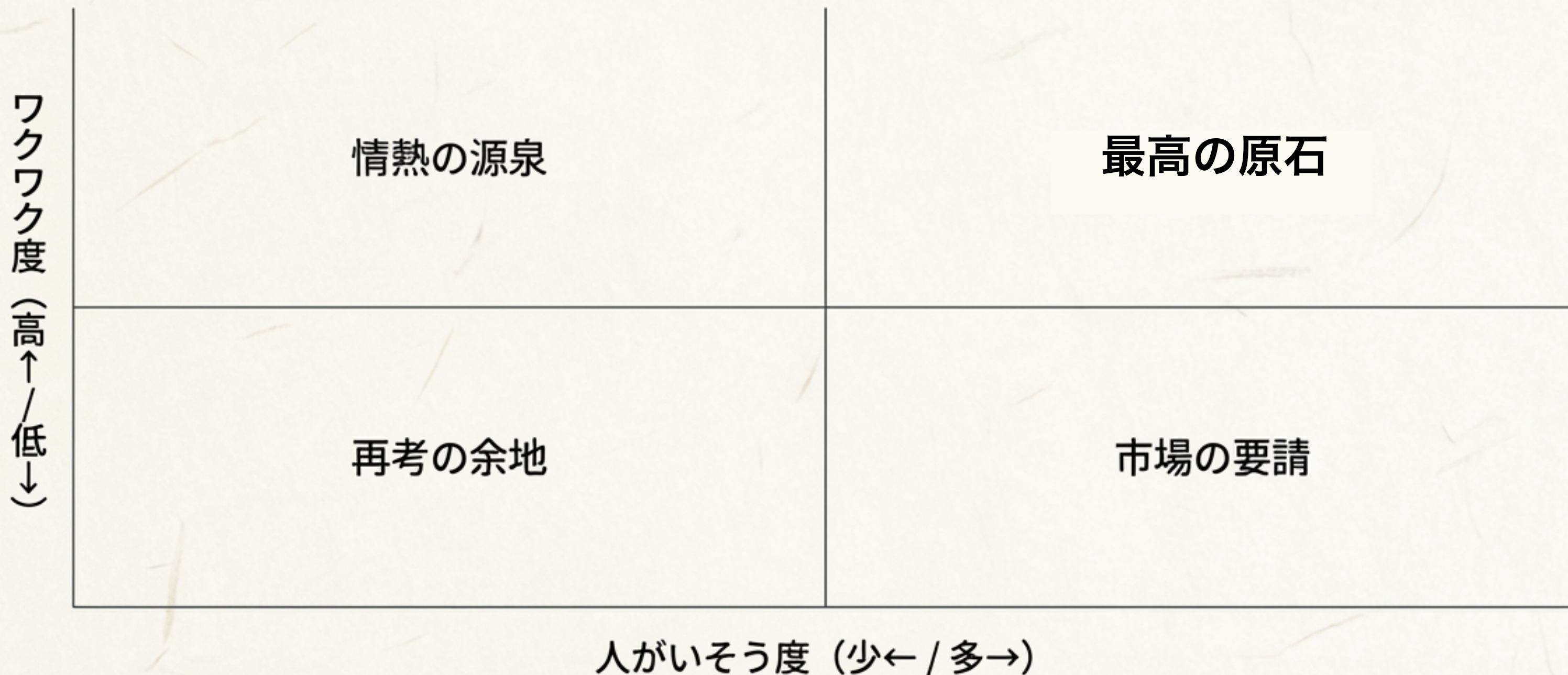
理

【横軸：人がいそう度】

そのアイデアを、どれだけ多くの人が求めているか。市場の存在であり、事業の成長可能性を示す。
(理)

アイデアを配置し、注力すべきものを選べ

先ほど考えたアイデアを、下の図に配置してみましょう。右上（ワクワク度が高く、人が多そうな領域）にあるものから、深掘りしていきます。



四の巻：その事業に、なぜ心が燃えるのか



志こそが、最も折れぬ刀となります。あなたを突き動かす原動力は何でしょうか。
深く、正直な言葉で綴ってみてください。

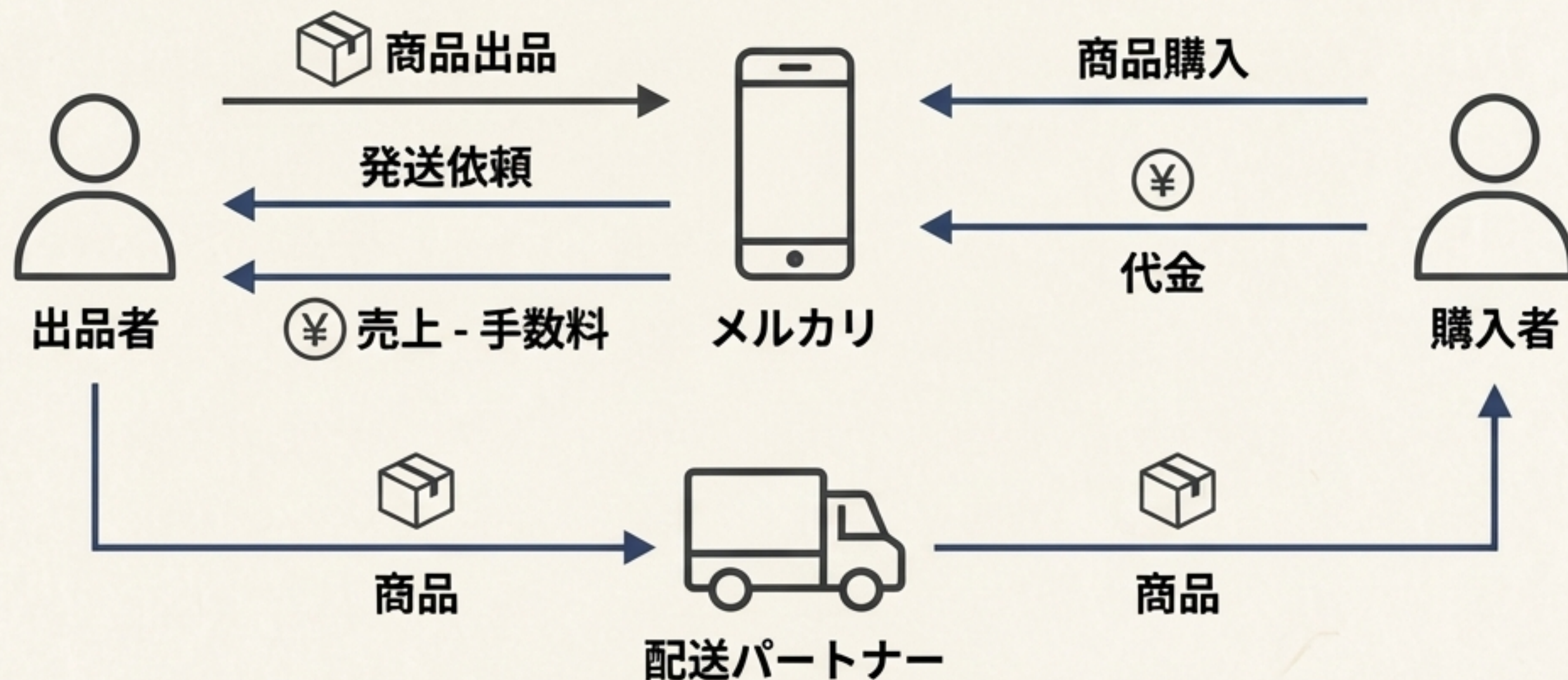
Q1. このアイデアの、どんなところにワクワクしますか？

Q2. どんな思いで、このビジネスをしたいですか？

五の巻：事業構想図（ビジネスモデル）

事業構想図とは、事業全体の「お金・モノ・情報・人」の流れを一枚の絵図に写し取る、最強の型です。誰が、誰に、何を、どのように提供し、対価を得るのか。その関係性を可視化します。

【例：メルカリの事業構想図】



絵図を構成する駒（アイコン）

事業構想図は、これらの基本的な駒の組み合わせで描かれます。あなたの事業に関わる要素を、これらの駒で表現してみましょう。

			
【ヒト】 (顧客、ユーザ、従業員など)	【モノ】 (製品、サービス、商品など)	【カネ】 (売上、費用、投資など)	【情報】 (データ、ノウハウ、指示、AIなど)
			
【建物】 (会社、店舗、取引先など)	【製造所】 (工場、外注先など)	【スマホ】 (サービス、アプリ、Webサイトなど)	

君の事業構想図を描き出せ

あなたのビジネスに関わる「駒」を配置し、それらの関係性を線で結び、価値の流れを描き出しましょう。完璧でなくて構いません。まずは手を動かすことが肝心です。

【指南】

この紙に手書きで構想を
練り、その写真をGemini
に読み込ませて整形・清
書するのも一手です！

終の巻：事業計画書（要約版）

これまで鍛え上げたアイデアを、他者に伝えるための最終形にまとめ上げます。これは、あなたの「道」の宣言書です。

一、事業名 / やりたいこと

三、事業構想図（ビジネスモデル）

二、発案に至る思い（課題と情熱）

四、この事業が実現した未来（私や周りの景色はどう変わる / 変えたいか）



これにて、基礎編は皆伝。

道は、ここから始まります。
さらなる高みを目指し、精進されよ。